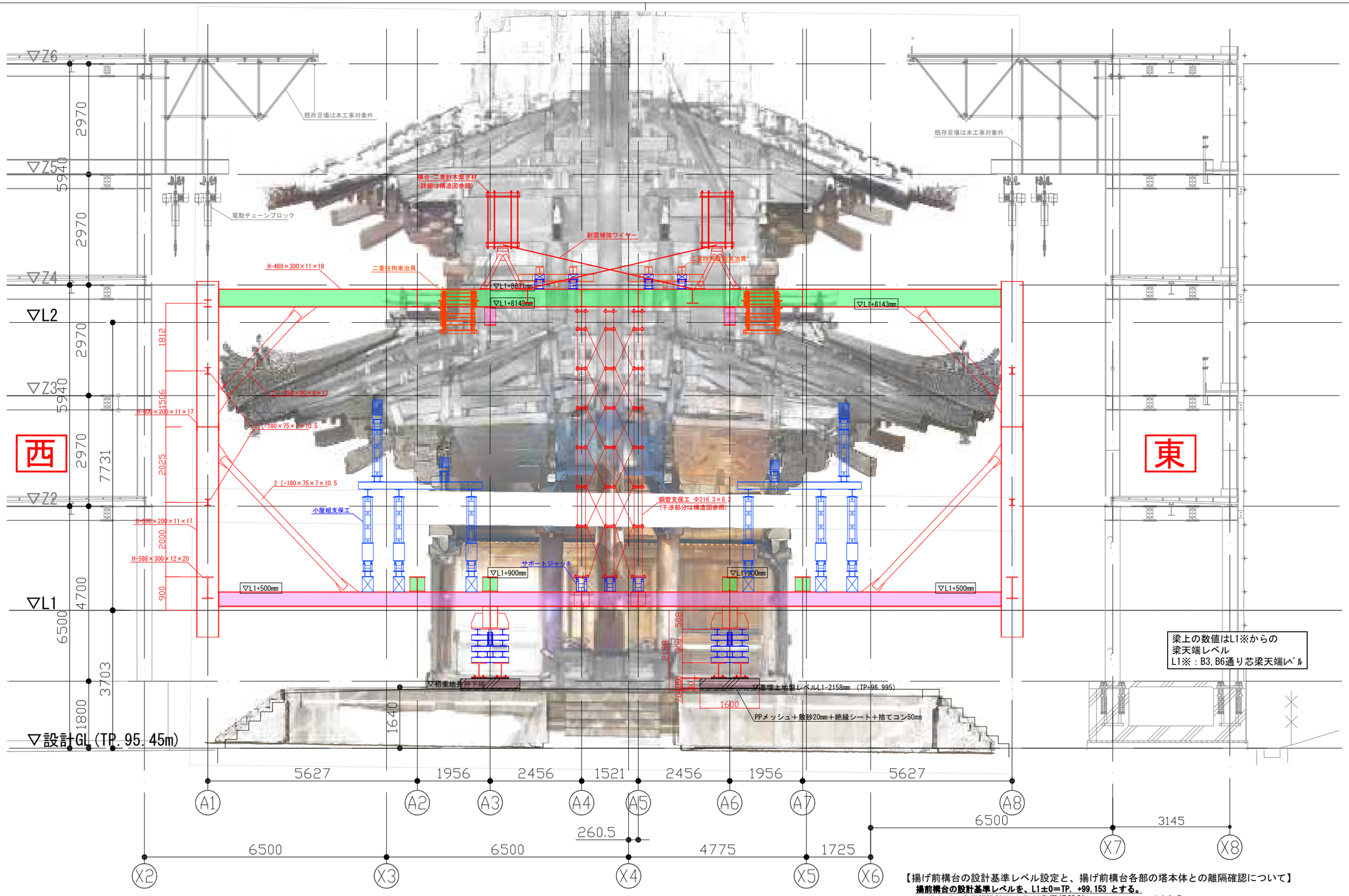

【揚げ前構台の設計基準レベル設定と、揚げ前構台各部の塔本体との離隔確認について】

揚前構台の設計基準レベルを、L1±0=TP. +99.153 とする。

・**L1±0=素屋根設計GL+3,703**(素屋根設計GL＝TP.+95.450m)となる。
　L1レベルは、揚前する前の下層3/6通2段目鉄骨桁天端レベルとして設定した。
　(初重西面の縦連子窓(B3通)を貫通する鉄骨桁(成400mm)下端と腰長押天端離隔を200mmとして計画)

・**L2=L1+7,731とする。**
　L2レベルは、上層2段目鉄骨桁天端レベルとして設定した。
　(A4/A5、B4/B5通の鉄骨桁が二重開口と四天柱筋の腰貫-柱盤高さの間に納まるように計画)

揚げ前構台と塔本体との高さ方向の離隔確認について

・上層2段目4/5通鉄骨桁上端と二重四天柱貫下端との最小離隔56mm。 (A4/5間断面北側)
・上層2段目4/5通鉄骨桁上端と二重側通頭貫下端との最小離隔69mm。(B4/5間断面西側)
・上層2段目4/5通鉄骨桁下端と二重四天柱 柱盤天端との最小離隔64mm。 (A4/5間断面南側)

※小屋組支保工の支点位置は、別紙［小屋組受 支柱配置,立面,断面図］も参照

記事	変更訂正	受領印	年月日 2026.3.27	工事名称 国宝 興福寺五重塔 揚前工事	図面番号 J-参02
		年 月 日	縮尺 A1 1:50 A3 1:100	図面名称 参考)点群画像 重合図 フレーム軸組B4/5 ジャッキアップ後	